

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会認定（試行事業）
試行事業病院総合医養成プログラム 年次報告書

2014年7月31日

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会
理事長 殿

以下に記載した内容で、貴学会の試行事業における病院総合医養成プログラムとして認定を更新していただけますよう申請いたします。

プログラム責任者署名（自署） 小林裕幸

1. プログラム名称			
「グローバルにも地域医療にも通用するイチロー型病院総合医養成プログラム」			
2. プログラム責任者			
プログラム責任者氏名	小林裕幸	学会会員番号	
所属・役職	筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター 水戸協同病院 総合診療科教授		
所在地・連絡先	住所 〒310-0015 茨城県水戸市宮町 3-2-7 電話 029-231-2371 FAX 029-221-5137 E-mail hrkoba1@gmail.com		
連絡担当者氏名・役職	*プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合のみ記載		
連絡先	電話	FAX	
	E-mail		
3. 最近1年間のプログラムの概要			
・研修者の感想や、アピールポイントをお書きください			
1. 水戸協同病院の1年間を振り返って（鈴木論先生）			
<p>私はこれまで初期研修、後期研修、その後のスタッフと、8年間群馬県の中小病院及び無床診療所で一般内科診療、家庭医療を中心とした医療を行っていた。高齢者を中心とした急性期病棟医療、慢性期外来、在宅訪問診療。医師としての経験年数を積むにつれ診療の幅は広がり、自分自身でマネジメントする事が増えてはいたが、ここ数年は自身のキャリアパスについて悩み、医師としてあるべき姿を模索していた。日々Playerとして日常診療を行う中で、家庭医を志して専門医はとったものの、今満足感を感じて行っている日常診療活動は当初志していた家庭医療とは若干異なる要素も含まれているのではないかと考えていた。そして、それは家庭医療という枠組みではなく、病院総合医という枠組みに近いのだろうという結論に至った。</p> <p>病院総合医としての研鑽をしたい。そう思ってから情報を求め、いくつかの病院を見学に行った後に、最終的に病院総合医の研鑽先として選択したのが、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・茨城県厚生連総合病院水戸協同病院である。「イチロー型の病院総合医を養成する」というコンセプトのもと、大学教官及び病院スタッフが一つになって後進教育を行っている病院に、強く引かれるものがあった。</p> <p>実際に今、この1年間を振り返ってみて、その選択は正しかったと感じている。Academicな環境で一つ一つの診断と治療に深みを持たせる医療活動、教官及びスタッフ医師の人柄、多職種との良好な関係</p>			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

性、地域の中で求められる医療機関としての役割、勉強熱心で向学心が強いレジデント。私が学びたいと思っていた病院総合医、その理想の形の一つがここにあると感じた。そして、その理想の形が一つ一つの歯車が噛み合いながら良好に機能している病院であった。

私がこの1年間、水戸協同病院に在籍する事で、この地に何が残せたのかは分からない。フェローという立場で後進教育にも関わらせて貰えたが、実際の所、教える事より教わる事の方が多かったと思っている。ただ、その中でも自身の8年間の経験を元に、家庭医療的エッセンスを伝える事はできたのではないかと考えている。医師患者関係の築き方、患者家族との調整、退院調整、地域の見方、そしてスタッフコミュニケーション。Academicさは無いかもしれないが、何れも医師として大切な要素。この1年間関わったレジデントに、間接的にでも伝えられたのであれば良かったと思う。

水戸協同病院の「イチロー型の病院総合医を養成する」というコンセプトは、Academicの追求だけでなく医師としての心も養成すること。教官及び各専門科スタッフの日常的なレジデントとの向き合い方や、業務外での医師間の交流の機会(みとくプロレス、医局バーベキュー大会、同門会等々)を体感し、病院総合医としての理想の教育ができる環境が、ここ水戸にはあるのだと感じた。

4月から再び群馬の地に戻るが、これからも病院総合医養成の拠点として更に発展して行くであろう、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・茨城県厚生連総合病院水戸協同病院の魂を大切にしていこうと思う。1年間お世話になった方々に感謝し、振り返りを終わりとしたい。ありがとうございました。

2. 水戸協同病院 (MGH) への他藩留学を振り返って (甘利悠先生)

MGHへお世話になることになったきっかけは、順天堂大学総合診療科で勤務している卒業8年目でした。前年から参加していた総合医スキルアップセミナーで徳田安春先生・小林裕幸先生に出逢い、この先生方のところで研鑽したいと強く思った私は徳田先生に直談判させて頂いたのでした。背景にはジェネラリストとして大学病院や系列病院で勤務する中で、専門各科の間で守備範囲が決まってしまう環境の難しさに葛藤があったこと、またここからの成長のための新たな刺激を受けたいと考えていたことがありました。幸い徳田・小林両先生にはほぼ二つ返事で、「いいじゃないですか! (笑顔)」と言って頂き、また大学院在学中の順天堂総合診療科上司の多大なる理解もあったことで、1年間の江戸から水戸への他藩留学が実現しました。

こうして期待半分、不安半分(むしろこちらのが大きかったのは内緒です)で全くのアウェイに飛び込んだ私でしたが、まず感じたのは驚くほどウェルカムでオープンな空気でした。専門各科の先生方も含めて(整形外科医である病院長まで!)総合診療科に対して深い理解があつて、非常にコンサルトしやすい雰囲気があり、またそこからの各専門領域の検査や専門治療、手術までのフットワークの軽さに驚きました。そんな環境の中での、総合診療科が中心となって全ての内科入院患者さんを受け入れ退院させるシステムの素晴らしさ。徳田先生や小林先生をはじめとしたスタッフの運営・企画力と筑波大学やMGHに派遣されている専門各科医師のおかげで、いわゆる野戦病院ではなくちゃんとした教育を与えられながら、総合診療科が主力となり入り乱れる内科各疾患全てと向き合える環境がここにはありました。

また日々中心となって目の前の様々な疾患に立ち向かっていくシニア・ジュニアのレジデントの先生たちのモチベーションの高さにも非常に刺激を受けました。有名研修病院にありがちなガラガラ感だ

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

けでなく謙虚さもあって、忙しい中でふてくされたり天狗になる（暇がない！？）ことなく毎日の試練に向かっていく彼らと一緒に仕事をする喜びを感じながらの1年でした。まさにこれこそ求めていたもので、彼らの純粋な向上心と環境に揉まれてメキメキ成長していく姿を目の当たりにする日々は、気持ちを新たにすいいい機会となりました。

随所で自分の知識不足を痛感するとともに間違っただまま定着していた習慣に気づき、下からの突き上げや上への道の果てしなさに焦ったりもする日々でしたが、良い環境と素晴らしい仲間恵まれ自分の医師人生の中でかけがえのない1年になりました。今後へのモチベーションを新たにすると共に、ジェネラリストとしてのアイデンティティを再確認させて頂きました。歴史のある水戸の街、特に病院近くの素晴らしいグルメスポットの数々にも大変お世話になったことも付け加えなければなりません。

初期・後期研修だけでなく現在総合診療科医として戦っている者をも快く受け入れてくださるこういったMGHの懐の広さによって、今後も水戸から各地にジェネラリスト魂が広がっていくことを願ってやみません。

4. 過去2年間の実績

2012年度	新規研修開始者数	1 名
	研修修了者数	1 名
2013年度	新規研修開始者数	2 名
	研修修了者数	2 名

5. 現在のプログラム研修者該当者数（研修休止中の者を含む）

1年目	2名	2年目	0名	3年目	0名	4年目	0名
-----	----	-----	----	-----	----	-----	----

6. プログラムにおける指導医

主たる施設における指導医以外の、関連病院の指導医は氏名の下に施設名を記載

氏名	卒業年	専門分野・資格	専門分野・資格
徳田 安春	H1年	内科学会 総合内科専門医	筑波大学臨床教授
		Master of Public Health	米国内科学会フェロー
小林 裕幸	H2年	内科学会 認定内科医	筑波大学総合診療科 准教授
		米国家庭医療専門医	体協公認スポーツドクター
金井 貴夫	H9年	内科学会 認定内科医	精神保健指定医
		日本緩和医療学会指導医	日本精神神経学会専門医
木下 賢輔	H14年	内科学会 認定内科医	PC学会認定家庭医療専門医

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

渡辺 重行	S60年	内科学会 認定内科医	筑波大学循環器内科 教授
		日本循環器学会評議員	日本不整脈学会評議員
外山 昌弘	S63年	内科学会 総合内科専門医	循環器学会認定専門医
		日本医師会認定産業医	人間ドッグ健診情報管理指導
佐藤 浩昭	S60年	内科学会 総合内科専門医	筑波大学呼吸器内科 教授
		日本呼吸器学会専門医	認定医機構がん治療認定医
籠橋 克紀		内科学会 総合内科専門医	筑波大学呼吸器内科 講師
		日本呼吸器学会専門医	認定医機構がん治療認定医
錦 健太		内科学会 認定内科医	筑波大学腎臓内科 講師

7. 施設・診療科診療実績概要

病床数 312 床 (内総合診療部門定床 200 床)

総合診療部門外来患者実績 初診 約 4612 人/月 再診 約 4327 人/月

総合診療部門入院患者実績 平均 約 3115 人/月

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

8. 診療実績 研修者1人平均経験症例

急性期一般病床入院	約	500 症例
集中治療室 (ICU)・HCU 入院症例	約	30 症例
外来継続診療症例	約	100 症例
看取り症例	約	30 症例
委員会活動実践事例	約	12 症例
教育実践事例	約	12 症例
研究実践事例	約	3 症例

9. 診療実績 研修者一人平均経験症例 領域別

症例数不明の場合は、おおよその割合を記載してください

研修領域	症例数もしくは割合	主な疾患名
心疾患系	約 症例	
	約 15 %	
呼吸器系	約 症例	
	約 15 %	
消化器系	約 症例	
	約 15 %	
代謝内分泌・血管系	約 症例	
	約 15 %	
神経系	約 症例	
	約 10 %	
腎泌尿器科系	約 症例	
	約 10 %	
リウマチ性・筋骨格系	約 症例	
	約 5 %	
皮膚	約 症例	
	約 5 %	
耳鼻咽喉科	約 症例	
	約 5 %	
その他	約 症例	
	約 5 %	

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

10. 研修者の評価方法（研修修了認定の方法も含めて、具体的に）

- ・フェローは、研修中、研修の軌跡がわかるようなポートフォリオを作成した。
- ・フェロー評価表に基づき、自己評価、医師・コメディカルを含む360度評価を行い、半年に1回評価表に従い指導医がフィードバックを行った。
- ・フェローの内科認定医、総合内科専門医取得を推奨した。
- ・研修終了認定は、各ローテーションの評価表、研修修了時の総合評価、フェローのポートフォリオ、学会発表、症例報告、論文作成、学会認定資格などを考慮して総合的に判断した。

11. プログラムの質の向上・維持の方法

- ・週1回スタッフミーティングを行い、研修についてのレビューを行う。
- ・フェローの学会発表、症例報告、論文作成を推奨する。
- ・国内、海外から定期的に指導医を招聘し、教育回診、レクチャーを行ってもらうと同時に、プログラムについてのフィードバックを得る。
- ・他施設と指導医交換、フェロー交換を行い、参考とする。

その他、お気づきの点やご意見等ありましたら下記にお書きください